The Japan Dickens Fellowship

NEWSLETTER Fall 2007

Department of English Literature
Graduate School of Arts and Letters, Tohoku University
17–24 Kawauchi, Aoba-ku, Sendai 980-8576 Japan
Tel & Fax +81(0)22-795-5961(Department Office)
E-mail : hara_ei@sal.tohoku.ac.jp
http://wwwsoc.nii.ac.jp/dickens/

2007年11月30日

2007 年 度　秋 季 総 会 報 告

2007年度の秋季総会は10 月7 日（土），佐々木徹氏のお世話により、京都大学吉田キャンパスで開催されました。京都はすでに秋の観光シーズン。連休でもあり、宿を確保するのに苦労しました。よく晴れた日でしたが、夏の猛暑の影響がまだ残っているらしく、大変暑く感じました。総会の方は60名を超える参加者が集い、充実した研究発表と講演が続いたこともあって、こちらも熱気に溢れていました。

○　審議事項

1　2006 年度決算について

中村隆財務理事から次の通り報告がありました。これについて植木研介監事から適正であるのとの監査報告がなされ，審議の結果，承認されました。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部
2007 年度会計報告（2006 年 10 月 1 日～2007 年 9 月 30 日）
収入の部

収入名目	金額	備考
前年度繰越金	3,764,799 円	
会費	1,014,000 円	（160 人×6,000 円＋54,000 円）[1]
預金利子(郵便貯金)	239,564 円	定額郵便貯金 1,410,000 円の解約に伴う利子
預金利子(銀行預金)	1,645 円	みずほ銀行の 07 年度分の利子
合計（A）	5,020,008 円	

注[1] = 9 名が昨年度未納の会費（2 年分）を含めての振込（6,000 円×9＝54,000 円）

支出の部

支出名目	金額	備考（内訳）
ロンドン本部へ （*The Dickensian* 代含む）	473,914 円	*The Dickensian* 代がその大半を占める。
年報印刷費（29 号）	374,850 円	
DF 春季大会、DF 秋季総会運営費	111,818 円	会場費、学生アルバイト代、飲料代・菓子代、など
郵送通信費	207,856 円	*The Dickensian* 発送費 DF 春季大会、DF 秋季総会プログラム発送費、『ディケンズ・フェロウシップ年報』発送費、郵便代、振込手数料、など
『ディケンズ鑑賞大事典』出版助成金	3,000,000 円	
合計（B）	4,168,438 円	

◎収支決算（次年度への繰越金）：合計（A）－合計（B）＝851,570 円

2007 年度会計を以上の通り報告いたします。

2007 年 10 月 6 日

理事（財務担当）　中村隆

上記の通り相違ありません。

監事　植木研介

3　会費の改訂について

中村財務理事から会費の値上げについての覚え書きに基づき、財務の現状について報告があり、原支部長から会費改訂（値上げ）の提案がありました。支出が増大している最大の原因は *The Dickensian* 購読料を含む本部会費の値上げと円安ポンド高です。現行会費のままでは早晩赤字になることは避けられません。審議の結果、一般会員の会費を 8,000 円とすることが承認されました。なお、学生・院生会員については、据え置きまたは値下げをしてはどうかというご意見があり、これについては理事会に一任することになりました。

4　来年度の春季大会開催場所について

支部長から，来年度の春季大会は松村豊子氏のお世話により、江戸川大学で開催予定であるとの報告がありました。

研　究　発　表

司　会　松岡光治 (名古屋大学)

ディケンズとイギリスの歴史

—『英国史物語』—

矢次　綾（宇部工業高等専門学校准教授）

ディケンズが子供向けに書いた『英国史物語』（*A Child's History of England*, 1851-53）で、何が表現されているかが、キートリー、ヒューム、マーカム、マコーレイらによる『英国史』と対照しながら、考察されました。『バーナビー・ラッジ』などのディケンズの「歴史小説」との関連についても言及がなされました。あまり注目されることのない作品ですが、ディケンズの歴史観と彼の小説創作活動との関連について大変示唆的な内容の発表でした。

探偵小説の源流に関する考察
—ポオとディケンズ—

廣野由美子（京都大学准教授）

史上初の探偵小説がE・A・ポオの「モルグ街の殺人」とされるのは、ディケンズの『バーナビー・ラッジ』が探偵小説の草分けであることを無視した議論です。ポオがディケンズに強い影響を受けたことは明らかです。しかし、ポオの探偵小説とディケンズのそれとの間には、ある本質的な違いがあるように思われます。廣野氏の発表では、それぞれの作家によって「探偵」がいかに造形されているか、その謎解きの方法はいかなるものかが、『荒涼館』のバケット警部とポオのデュパンとの比較を通じて検討され、探偵小説の系譜に占めるディケンズの位置が浮き彫りにされました。該博な知識に裏づけられた深い洞察と示唆に満ちた発表でした。

特　別　講　演

司　会　松本靖彦 (東京理科大学准教授)

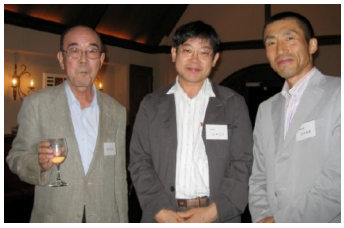
“The Soft Time of *Hard Times*”

ジャン・ベイカー・ゴードン Jan Baker Gordon（京都女子大学教授）

今回はゴードン教授をゲストにお迎えしました。東京外国語大時代の教え子である松本靖彦氏が司会を務めました。ゴードン教授は、『辛い世の中』をとりあげて、これまで対照的と捉えられてきたコークタウンとサーカスとが実は相似的関係にあることを指摘しました。この二つの世界の間で媒介者となるのがハートハウスであることに注目し、彼が外見上の「対立」を「解体」する様を詳細に論じました。気さくな雰囲気でお話しされましたが、講演内容は哲学的論理性と掘り下げの深さに裏づけられており、私たち聴衆は知的冒険を経験させられることになりました。

『ディケンズ鑑賞大事典』出版記念パーティ

今年は懇親会にかえて、日本支部をあげての大事業である『ディケンズ鑑賞大事典』の完成・出版を祝い、出版記念パーティが催されました。こちらは玉井史絵氏がお世話をしてくださいました。総会終了後、同志社大学今出川キャンパスに移動し、寒梅館最上階のレストラン「セカンドハウス・ウィル」へ。出版をお引き受けいただいた南雲堂の原信雄氏もお忙しい中を駆けつけてくださり、ご祝辞を賜りました。40数名が祝杯をあげ、美食を楽しみつつ歓談しました。



訃　　報

間　二郎 氏

長年にわたり日本支部に多大の貢献をしてこられた間（はざま）二郎氏が、去る 9 月 10 日に逝去されました。一年ほどにわたって闘病生活を続けておられました。必ずご快復をと願っておりましたが、残念ながら不帰の客となられました。間氏は 1926 年のお生まれで、終戦直後の困難な時期に東北大学で英文学を学びました。一時期、高校で英語教師をされていましたが、その後、創価大学で長いこと研究と教育に従事されました。日本支部が東京支部として創設されて間もなく会員となり、長い間にわたって、支部の活動を支えて来られました。間氏の手になる翻訳『我らが共通の友』はちくま文庫として出版され、この名作が日本の読書界で広く読まれる契機となりました。海外のディケンジアンにも友人が多く、その温厚なお人柄と風貌から「日本のピクウィック氏」として親しまれました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

『年報』第30号が完成しましたので，お届けします。

ご覧のように、索引を入れましたので、これまでで最大のページ数になりました。今年は刊行が大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。

会費納入のお願い

新年度会費を同封の郵便振替用紙によりご納入ください。
会費が改訂されました。ご注意ください。

一般会員　8,000円　　学生・院生会員　6,000円

※理事会で検討の結果、学生・院生会員については6,000円に据え置くことといたしました。

2008年度春季大会研究発表募集

2008 年度春季大会は江戸川大学で開催される予定です。詳細は決まり次第メーリング・リスト，ウェブサイト等でお知らせいたします。

研究発表を募集しますので，ご希望の方は，下記要領でふるってご応募ください。

○ 研究発表の内容要旨を 400 字程度にまとめたものを，2008 年 2 月末日までに，下記宛電子メールでお送りください。

hara_ei@sal.tohoku.ac.jp

※ 電子メールが利用できない方は事務局宛郵送でかまいません。

○ 応募者多数の場合には，やむを得ずお断りする場合もありますので，あらかじめご承知おきください。

ディケンズ・フェロウシップ日本支部事務局
〒980-8576　仙台市青葉区川内27―1　東北大学大学院文学研究科　英文学研究室内
電子メール：　hara_ei@sal.tohoku.ac.jp
電話・ファクス：022-795-5961（英文学研究室，南部彰子助手）　022-795-5959（原支部長直通）